



編集・発行 山見妙勢能宗蓮  
日蓮宗 能勢妙見山 広報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### 写経の功德

倉橋 觀隆

真如寺では六月に皆様の写経を納経塚に納める納経会を行っております。

写経は古来より仏道修行の中でも殊に重んじられています。お釈迦様の在世、お説法を文字に表すことは控えられました。ご入滅後お弟子方は教えの曲解と散逸を避ける為に經典の編纂を始めたのです。しかし、当時は印刷技術が発達していなかったので書写が重視されました。さらにそれは技術的な事柄に留まるものではなく、書写自体がお釈迦様の御心を受け取る為の修行だったのです。殊に法華経は書写を重要な修行徳

目に挙げています。「一仏一字」との如く一人の仏様のお姿の中に一文字が書かれた写経も多く遺されています。経文は単なる文字ではなく仏様ご自身という教えの表れでしょう。

日蓮大聖人も写経の功德についてこんな物語を述べておられます。

昔の中国のお話です。オリヨウという当代随一の書家がおりました。彼は中国古来の道教を信じており、後から伝わった仏教を否定していました。生涯、仏教經典は一字たりとも書かなかつたのです。そして臨終の折、息子イリヨウに「經典を書写してはならぬ。殊に一番広く読まれている法華経は決して書いてはならぬ」と遺言をしました。ところが仏教に深く帰依していた皇帝がイリヨウに法華経の書写を命じたのです。父の遺言を守って拒み続けましたが勅命には従わざるを得ず、遂に法華経八巻の題名のみを書きました。彼は遺言に背いたことを深く悔いました。その夜、父の夢を見ました。夢に出てきた父は自らの遺言が逆になり、地獄に堕ちていた

のです。しかし、息子の写経の文字が天から次々と降って来て釈迦仏の姿に変わって私を救ってくれたというのです。この話を聞いた皇帝は大いに喜び、その後一層法華経の写経を奨励したということです。大聖人は写経は懺悔滅罪と祖先孝養の修行と説かれています。日々のお経読誦に加え写経にも取り組んではいかががでしょうか。

### 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

#### 我等

なんでこの世に生まれただか問うてみるのもまた一興

#### 昔より来

望む望まずかわからず

#### 真に是れ

今ここに在るあなたです

#### 佛子なれども

なんと云おうがいのちほど不思議なものはありません

#### 而も但

そこに気づけばこのいのち

#### 小法を楽う

受け取り方が変わるよと

#### 『信解品第四』

仏があなたに諭します

### 【5月の主な行事】

★妙見大菩薩年大祭 15日(月)

11時 特別加持

11時50分 法話(倉橋觀隆師)

13時 星嶺にて祈願法要

※特別加持祈禱ご希望の方は事務所にて受け付け中です。

★写経会 14日(日)11時

★星嶺演奏会 21日(日)11時

★星嶺茶論 21日(日)13時

★鷗様月例祭 22日(月)15時

※火伏守札を授与

### 【6月の行事予定】

★写経会 11日(日)11時

★月例祈願法要 15日(木)13時

★星嶺演奏会 18日(日)11時

フルート&ピアノ生演奏

★星嶺茶論 18日(日)13時

太鼓教室です。初心者歓迎。

★鷗様月例祭 22日(木)15時

※火伏守札を授与

### 《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト毎日運行中

### 金平糖のココロ

小林 謙照

可愛らしいトゲトゲがたくさんあって、風味も色も種類が豊富な大人にも子どもにも人気の食べ物なーんだ？

正解は、金平糖です。

娘が先日友達から金平糖をもらって、えらくご機嫌だったので、少し調べてみました。

金平糖のルーツはポルトガルで、宣教師が織田信長に献上したことがきっかけで日本に広まっていったそうです。とは言っても、製法の難しさから庶民に広まるのはだいぶあとのこと。

材料はシンプルで、ザラメと糖蜜。銅鑪（どら）と呼ばれる大きな釜で二週間近くかけて作ります。実は金平糖にはレシピがなく、一子相伝の技を天候・釜の温度、角度など見極め、パランスを整えながら、コテ

入れ十年、蜜掛け十年、約二十年の修行を経て、一人前になるまで体で覚えていくそうです。

あの一粒に二十年の技が詰まっていると思うと、軽々しく食べられませんね。

ひるがえって、お坊さんの世界でも「五十、六十鼻垂れ小僧」と言われたりします。五十歳や六十歳と言えれば社員であればベテラン社員であったり、人によつては定年を迎えるくらいの年齢です。それほど人生経験を積んでもなお仏道修行の道は長いと言うこと。慢心しては行けないぞ、という戒めの言葉なのでしょう。

さて、日蓮上人の御遺文に「御宮使いを法華経と思し召せ」という一文があります。御宮使いとは仕事や学業、家事などを含めた生活全般を指します。法華経と思し召せ（おぼしめせ）とは、生活を法華経の修行

と心得て、法華経を信仰するときの心構えと同じように、普段の生活でも慈悲や感謝の心を込めて精進すれば、それが必ず自身の功德となるということです。

最近では妙見山のよう  
な山奥にも外国人旅行者の姿を見ることが増えてきた。  
お互いの時間がある  
ときならカタコトの英語で仏教の説明をすることもあり、興味をもつてくださるかたも多い。  
書物を読むよりもつかかり易いのかもしれない。

### ☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

また最近では、インターネットで世界中の会ったこともない人にも発信できる。何かを伝える手段が飛躍的に広がった気がする。  
伝える事も大切な仏道修行。状況に応じて様々な手段があるが、まずは自分にあつた方法で仏教を話題にしてみてはどうだろう。  
U.K

金平糖職人が長時間集中し、丹精込めて一粒の金平糖を育て上げるように、私もただ漫然と日々を過ごすのではなく、仏道修行であるという目的意識を持ち、日々精進し菩提心を育てていきたいと思えます。

**俳 壇**  
（みのり）

杖ひきて登る参道著我の花  
蛇穴を出て楽しむや日の光り  
外国の言葉飛び交う若葉径  
満開の花にひかれて乗り遅れ  
朝寝して親子楽しむ日曜日

### 暦のあれこれ

#### 六曜（四）

幕末頃から流行しはじめた六曜ですがその原因の一つに六曜の順序の不連続性があげられます。新暦では、突然六曜の順が変化したり、六日ごとになつてなかつたりし、それがなにか神秘的に感じられ、六曜の人氣につながっているようです。  
しかし、これには理由があります。実は、旧暦の時には六曜の配当に仕組みがありました。毎月朔日（一日）には配当される六曜が決まっていたのです。それゆえ何月何日にはこの六曜が来ると分かかつてしまい、旧暦の頃はこの機械的な決まり方の為、人氣はなかつたのです。  
ところがそれを新暦に当てはめると、全くの不規則な動きをするようになってしまいました。おかげでその不確実性、不連続性ゆえ返って人氣が出たという事なのです。